

地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 9 月 16 日
事業所名	グループホームすずらん
事業所番号	2373300546
記入者名	職名 管理者 氏名 小林仁美
連絡先電話番号	0533-69-8822

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの基本理念を利用案内時の説明文書及び玄関の見やすいところに明示し、入居者及びその家族に分かりやすく説明している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員採用時には、必ず理念を伝え理解してもらうよう説明している。理念を常に意識し、ミーティング時に共有、実践できるよう話し合っている。	○ 毎日、勤務前に理念を読んで一日を始めて頂くようにしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族面会時や家族会また、すずらん便り配布等で伝えている。地域の行事などに参加した際、ホームの様子や取り組みについて伝えるようにしている。	○ 地域の方が気軽に足を運んで頂き、ホームでの生活の様子を伝えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩に出掛けた時、近所の人とお話をしたり、気軽に立ち寄ってもらえる雰囲気づくりを心がけている。	○ 気軽に行事など参加してもらえよう働きかけをしている。バーベキューに参加して頂いている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民として自治会に加入している。地域の盆踊り大会に参加したり、地区の保育園、小学校、中学校との交流もあり、敬老会に招かれたりして地元の人々との交流にも努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ミーティング時に何か地域へ役立てるような事がないか話し合いを行っている。 ゴミの日に周辺を片付け、ご近所の方より喜んで頂いている。 実習性を受け入れしている。	○	ミーティングで話し合った事柄を推進会議で具体案に持ち込んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を職員全員が理解できるようミーティング時、職員全員で話し合い、評価結果について検討し改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地区の常会長、地区の老人クラブ会長、地域包括支援センター、介護相談員を招き、評価結果や取り組んでいること、日頃のホームの様子等を報告し意見をもらうようにしている。	○	幅広い立場の方からの目を通して助言を頂いたり、地域の理解や支援を得てサービスの質の向上に繋げていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	随時、足を運んだり、電話で市町村担当者との情報交換、入居者さんの情報など話をしている。 介護サービス機関連絡協議会に参加し他事業所と情報交換している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解ができていない職員が多いと思う。	○	勉強会を開くか、資料を配布し周知を図ってきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事実はないが十分注意を払い防止に努めている。	○	勉強会やミーティング等を実地し、高齢者虐待防止法に関する理解浸透に向け取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ時、家族や利用者に納得して頂けるように説明し、同意を得ている。 解約する時、相手の立場になって考え、家族の一員として支えあう関係を築いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの言葉を聞き逃さず、職員間で話し合い改善するよう努力している。	○ 利用者さんに意見を聞く場を設けていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	すずらん便りや、面会時に日頃の様子を報告している。特変時は即刻状況を伝え対応について相談している。 管理については毎月支払い日に現金出納帳を確認して頂きサインを頂く。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時には必ず家族の方とお話をさせて頂き、意見等があれば管理者と職員で誠意を持って対応し改善するよう努力している。家族会等を設け、家族の意見を聞く機会としている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、管理者、職員全員で意見交換するようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態や状況に応じて、柔軟に勤務調整を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	立ち上げの時から居る職員が大部分で顔馴染みの職員による支援をおこなっているが、異動に対しては本部より通達後、スムーズに引き継ぎが行われるように、職員の配置に工夫している。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は段階に応じて、パートの職員もチームの一員として、研修に参加する機会を作っている。研修後にはレポート提出や随時ミーティングで報告し知識、技術の向上を図っている。	○	今後も継続し、法人内外の研修に参加し、知識・技術の向上に努めていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に参加し情報交換している。同法人内のグループホームと年行事を行い相互訪問したり 2ヶ月に1回合同部会を開催し、サービスの質の向上について話し合いをしている。	○	他の施設などの見学会や研修など同業者との交流を深め、情報交換や相談を行っていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員と管理者とのコミュニケーションが取れており、ストレスを一人で抱き込まない関係を作っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自で年間目標を挙げ、毎月自己評価、上司の評価を出し、自身を振り返り、見直すことで向上に繋げるよう努めている。人事考課にて個々の努力が認められれば昇格もあり、資格手当でも付く為、向上心を持って働ける。	○	スキル・ランクアップの為の研修にも参加する機会を作り、今後も職員が意欲を持って働け活気のある職場であるように努めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談でこれまでの生活歴を聞き、ご本人の求めている事、不安なことを理解し受けとめる努力をしている。	○ 今後も本人のニーズの把握に努め、本人のペースに合わせた生活を支援していきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族とのコミュニケーションを取り、どんなことでも対応できるよう、皆で話し合いながら家族との信頼を深めるよう努力している。	○ 家族の本音を聞きだせるような面接を行い、よりの確なニーズの把握に努めたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人と家族のニーズを把握し共有することで信頼関係を築き状況等を確認、見極めながら対応に努めている。	○ 家族がいつでも気軽に相談できる環境、関係を作り、サポートしていきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人、ご家族が見学に来られた時、ホームの雰囲気を見て頂き、施設の説明や、他の入所者、職員とコミュニケーションを取り、安心して利用できるよう、ご家族と相談しながら生活支援を工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の立場になり、不安、喜びを分かち合い支えあえるように努力している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の一員として入居者様との関わりを持ち支援している。	○	行事などを通し、一緒に参加してもらえるよう声掛けをしている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人の日頃の状況を報告、相談すると共に面会時にはご本人とご家族との間が良い関係が築いていけるよう努力している。 行事にご家族を誘ったり家族会を開催共に楽しい時間となるように支援している。	○	家族、本人の思いや状況に応じて、外出や外泊で家族との時間を大切に支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前より楽しみに通っていた場所へ入所後も通えるよう支援したり、また友人・知人の面会もあり馴染みの人との関係が途切れないよう支援している。		今後も継続し、馴染みの人・場所を知り大切にしていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話を聞いたり、毎日の食事、おやつ時、楽しい話をしたり、気の合う人と買物に出掛けたりし、入居者の個性や他者との関係を把握して孤立しないようサポートしている。	○	入居者一人ひとりと会話を多く持ち支援に活かしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された利用者に対しては同法人内の施設に入所された方との継続的な関わりがあり、遊びに行ったり来られたりしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動、表情から安心できるよう声掛けし、希望に添うよう努めている。困難な場合は本人本意に検討している。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初の申し込み時に生活歴、生活環境、一日の暮らし方、病歴等をお聞きして、これまでの暮らしの把握をしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各自、介護日誌、申し送りの確認を行い、利用者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の行動より本人の全体像を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意見を聞き、職員の意見交換をモニタリング・カンファレンスに活かすようにしている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画について、日常的な話し合いや、毎月の会議で入居者個々に対する気付きを出し合い、介護計画作成に活かしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を用意し、食事量、バイタル、入浴等、日々の暮らしの様子を記録している。入居者の状態変化などは申し送りにて記録し職員間の情報共有をし、また職員会議にて個別のケアについて話し合っている。	○	対応が遅れないようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医院の往診が受けられる体制がある。家族へ電話連絡、また往診等の対応で入居者の安心、安全が保たれる支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月定期的に来て下さるボランティアさんや、地域のボランティアさんにボランティア会を開催したり、保育園、小学校、中学校との関わりもあり、警察、消防、民生委員さん等、何かあった時、協力をお願いしている。また地域の催しものに参加している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問理美容サービスを利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加される方々との関わりで協力関係を築いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族同行の受診となっており、契約時にその旨を説明し同意を得ている。 協力医療機関の先生が理解ある方で、希望もよく聞いて頂いている。受診時には、直近の様子を伝え、バイタル表（熱、血圧、食事量等）のコピーを持参して頂き、かかりつけ医の指示をもらっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医ではないが認知症の医療に熱心で適切な指示や助言をして下さる医師はみえる。	○	入居者の状態・状況に応じて専門医の受診を支援している。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員がいる為、日常の健康管理や医療活用の支援、緊急時に対する勉強会も行うことができる。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医師と話をする機会を持ち、ソーシャルワーカー等を通じて情報交換し、主治医とアポをとり対応している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族・ご本人・医師の合意で繰り返し話し合い、状態の変化があるごとに家族の気持ちの変化に注意を払い、全員で方針を共有し支援につなげている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	対応に対して可能なこと困難なこと不安なこと等を職員全体で話し合い、家族や医師と連携を図りながら支援することに取り組んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他に移動られた場合、アセスメント、ケアプラン、支援状況等を手渡すと共に、ご家族への今までの感謝の気持ちも告げている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の行動を温かく見守り、不適応を起こしている行動の原因を理解し、不安や悲しみを取り除く対応を行うと共に、誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日の生活の中で常に声掛けし個々の力に合わせて決定する場面を作っている。声掛けに関して疑問文で声掛けし、自己決定されるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の個性を大切に、「自己決定」「残存機能の活用」「社会的ニーズの実現」の三原則を実現し支援している。	○	日常行きたい所に関しては家族、地域の協力を得て実現している。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の意向で決めて頂くよう声掛けし介助しながら援助している。 理容もホームに来てくださるが、本人の望む店に行けるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー、食材選びは毎日、入居者さんと選び購入している。食事の準備、調理、片付けも一緒に参加して頂いている。誕生日にはご本人の希望に添い支援している。また、行事等の際、季節に応じた食事を支援している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の好みを普段から、対話を通じ把握しておく。飲み物はいつでも飲めるよう配慮されており、個々で買物に行った時、好きなおやつを選んで頂くよう支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣を把握し、トイレ誘導、排泄を促している。排便も、食事内容や薬の使用によりコントロールし、健康面でのサポートも行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、好きな時間に入浴できるよう支援している。気の合う仲間同士での入浴を促している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者個々の生活習慣を把握し、休息や一人で過ごす時間を持てるよう支援している。また、日中の活動を促し、夕方より穏やかで安心した時間の過ごし方を支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や掃除、洗濯等、一人ひとりの力を活かし支援することで、役割や、張り合いに繋げている。行事や日々の買物等で、楽しみや気晴らしの支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員付き添いのもとで毎日の買物の時、レジにてお金を支払って頂き、おつりの確認をして頂くよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩、買物で戸外に出掛け、季節の変化を感じとって頂いたり気分転換を図って頂くよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事を通じて一泊旅行、日帰り旅行、歌謡ショー、演芸会見学、ドライブ等、家族と共に出掛けられる機会を作り支援している 又、個人的な外出も支援している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者さんが希望されれば必要に応じて電話したり手紙のやり取りができるよう支援している。	○	年賀状を家族や友人に出したりしている。今後も続けていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間など定めず、家族の都合のよい時間にいつでも訪ねて頂けるような配慮をしている。面会時には、お茶をしながらゆっくりと過ごす時間を提供し、訪問者にその喜びを伝え、再度 訪問に来て頂ける雰囲気作りに心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士で確認、点検し合い、身体拘束について考えながら、よりよいケアの実施に努めている。また言葉の拘束がないよう取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけず自由な暮らしを支援することで入居者さんの精神的なケアを支援している。入居者が外出されるようであれば、様子見、声掛けにて共に外出している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者の方といつも一緒の空間におり、夜間は起きられた時すぐ対応できるようにしている。	○	入居者を見失わないように事故が起きないように気を配っていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態に合わせて注意する物品の保管を職員で把握し、管理方法の取り決めをしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット、事故報告書の記録を通し、会議時に報告・対策を検討し、職員の共有認識を図っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急蘇生ケースと吸引機を購入し取り扱いを看護師に指導してもらい、職員全員で応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	○	消防署の協力を得て蘇生術の研修を実施していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に二回消防署の協力を得て、点検や避難訓練、非難経路の確認、消火器の使い方などの訓練をしている。緊急時の対応・連絡網等について、随時会議の際、職員への周知徹底に努めている。非常用保存食品を備えている。	○	地域との協力を得られる様、推進会議で話をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	個々に起こり得るリスクについてご家族に説明、 職員で検討し個々に合った対応を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努 め、気付いた際には速やかに情報を共有し、 対応に結び付けている	普段の状況を職員は把握しており毎日定時にバイ タルチェックを行い、体調に変化のある方は再度 バイタルチェックを行う。記録を付け速やかに報 告し早期対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理解してお り、服薬の支援と症状の変化の確認に努めて いる	個々の処方箋を整理し職員が内容を把握でき るようにしている。服薬時は飲み終わるまで確認して いる。 処方に変化があった時や状態変化が見られた場 合、申し送りノートに記入し、詳細記録をとるよ うにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解 し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体 を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを取り入れている。常にお茶 が飲める状態にしてあり、水分摂取を促してい る。 日中、身体を動かすよう一緒に掃除を行っている 排便時、介護記録に記入している。	○	便秘の知識について職員がより理解を深めていき たい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援 をしている	毎食後の歯磨きの声掛け、見守り、介助を行っ ている。 就寝前は義歯を外し各個々に保管して頂けるよ う支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎回記入し摂取量のチェックを行って いる。水分量も何回か声掛けにてお茶を飲んで頂 いており、就寝前お茶を自室に持っていかれる方 もいる。体調不良の方への栄養摂取量や水分確保 の支援は特に気を配って対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出後、食前の手洗い、うがいの徹底と、入居者さん、職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。 感染症予防のマニュアル表もあり、職員勉強している。	○	掃除に手すり等、塩素系消毒剤で掃除を行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の買物で、食材の賞味期限の確認を行い、賞味期限前に必ず使用している。 まな板、布巾等は漂白し、清潔を心掛けている 食器は乾燥機を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	昔、入居者が描かれた絵画を飾ったり、花を生けたりして家庭的な明るい雰囲気のある玄関になるように工夫している。 外の階段には手すりが取り付けられスロープも取り付けられている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓から見える景色は自然に囲まれ、季節の花、畑には野菜が植えられ、生活観や季節感を採り入れている。日中、日差しの調節に、障子を使っている。庭の物干し台は入居者の身長に合わせ、干しやすさ、埋め込まれている。 居間にはカラオケができるよう設置されている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の部屋の一室が畳み敷きになっており、堀コタツも設置され、お抹茶会を開いたり、気の合った利用者同士で過ごせる場所となっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、使い慣れた家具を持ってきて頂き、仏壇も持参されている方もいる。 写真や使い慣れた日用品を持参することで、本人が居心地良く過ごせるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中できるだけ窓を開け換気している。エアコンの温度調整にも気を配っている。 ポータブル使用の居室については、特に気を配っており、トイレは消臭剤で悪臭がでない工夫をしている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、手すりも完備されているため安全で自立した生活が送れる。掃除、運動等 個々のペースに合わせ参加して頂いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声掛け、見守りをし、今できることをして頂き、混乱や失敗を防ぎ、自立して生活できる様支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花壇があり、入居者と職員と一緒に畑の手入れをしたり草取り、収穫を楽しんでいる。 又、ウッドデッキでは、ボランティアさんと呼んでバーベキューをしたり、お月見をしたりして家族やボランティアさんの交流の場所ともなっている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

項目		取組の経緯
職員		継続中
利用者		継続中
職員		継続中
通いの		継続中

項	取	の	組	み	の
運営推					
職員					
職員か					
職員か					

【特に力を入れている点・ア
 職員同志の助け合い等